

シウウオがいるところをみると濁れることはない流れのようだ。13:20左俣出合。今日の目標はこの沢だ。

まずは出会いすぐの5m滝を直登する。ホールドは結構あるのだが、一番上に来てシャワーとなり、おまけにコケですべるのには参った。その先すぐにまたの滝。左岸に試し堀をしたのではないかと思われる高さ1m程の坑道が口をあけている。直登できるかとも思ったが、今日は1人なので何となく不安となり左岸を捲く。

この上はナメが続く。しかし今までの礫を固めたような岩から、細かい砂粒を固めたような感じの岩へと岩質が変化した。どうという滝もかからないので、どんどん先へと進む。

14:20兩岸は松のまだ若い植林地(1979年植樹)となり、沢は藪の中の細い流れとなっているのを見て、右岸の尾根を目指す。尾根上にははっきりした踏跡があり、男振部落へと続いていた。

(記)

[タイム] 赤沢出合(13:00)→左俣出合(13:20)→遊行終了(14:20)

赤沢右俣

1983年7月31日

L

国道399号が赤沢を渡る手前から流水路にそって道がある。そこを20分程進んで赤沢に降りる。遊行を開始するとすぐに左俣との分岐となる。水量は1:4で右俣の方が多。断続的に続くナメを進み、取水口を乗り越えたと中俣との分岐に出る。中俣は調査が済んでいるので、右俣に入る。

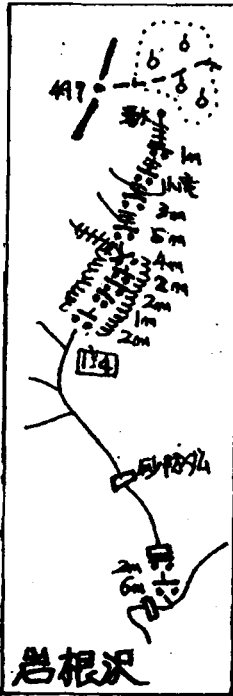
右俣に入るとすぐ右岸に炭焼き小屋がある。次に左岸に千枚岩状岩壁がそびえたつ。中俣との出合からも見え、良い目印となる。さして変化もない沢だが、この岩場だけは迫力がある。

ガレ場の中にある3mの滝を越すと、沢床は泥状となる。少し進むとカレ沢となり、二俣に分かれる。右に入るとやがてルンゼが現われる。右のルンゼに入り、途中から左岸に登って稜線に出る。稜線には踏跡があり、果



樹園まで続いていた。

(記・ 効)



【タイム】 赤沢右俣出合(9:40)→終了(10:35)

岩根沢

1983年7月31日

L1 カ

果樹園から岩根沢に入る。源頭は湧水で、沢幅はせまいがナメ床となっている。

下降を開始してから約5分で支沢と出会う。ここから小さな滝が連続し、規模は小さいがゴルジュをなしている。あとはさして変化もない。砂防ダムを2つ越えると6m程の滝があり、右岸の踏跡をたどって降りると布入川の流れに出会う。あとは河原歩きをして布入へ。

(記・)

【タイム】 下降開始(11:05)→終了(12:20)→布入(12:40)

阿部割沢

1983年11月3日

茂庭沢右岸の林道からヤブコギで茂庭沢に下る。丁度砂防ダムの上に出た。10分程で阿部割沢出合。水は流れてなく、見逃してしまいそうな出合である。

少し遡るとナメが出てきて水もチョロチョロなれど流れるようになった。やがて兩岸がくずれている所を通りぬけるとやがてF1 5m、F2 5m、F3 7mと続く3つの滝が出てきた。このうちF1・F2は軽くパス。F3は左のクラックぞいに登るが、滑りやすくてかなり緊張した。上に上がるとナメと小滝があってF4 5mとなり、左を小さく滑く。このあたり兩岸の上の方は岩場となっている。

